



2025 年 5 月 21 日

報道関係者各位

一般社団法人日本化学工業協会

日化協 3 賞（安全表彰、技術賞、RC 賞）の受賞者決定

— 化学産業のさらなる発展に向け、優れた取り組みを表彰 —

一般社団法人日本化学工業協会（住所：東京都中央区、会長：岩田圭一（住友化学㈱代表取締役会長、以下「日化協」）は、優れた安全活動を実施し模範となる事業所を表彰する「日化協 安全表彰」、社会全体の発展や環境の改善に大きく寄与した革新的で優れた科学技術や製品の創出を表彰する「日化協 技術賞」、およびレスポンシブル・ケア（以下「RC」）活動の普及や活性化に貢献した事業所、部門、グループや個人を表彰する「日化協 RC 賞」の本年度受賞者を、本日選定いたしました。

各賞の詳細につきましては、別紙をご参照ください。

なお、5 月 27 日（火）に、パレスホテル東京（東京都千代田区）において各賞表彰式を行う予定です。

以 上

《本件に関するお問い合わせ先》

一般社団法人日本化学工業協会 広報部 TEL: 03-3297-2555

〒104-0033 東京都中央区新川 1-4-1 住友不動産六甲ビル 7 階 <https://www.nikkakyo.org/>



第 49 回 日化協 安全表彰

【安全最優秀賞】

株式会社レゾナック 龍野事業所

設 立 年： 1971 年

主 要 事 業： 自動車・環境・電子材料向けの、不飽和ポリエステル樹脂、ビニルエステル樹脂、樹脂成形材料、合成樹脂エマルジョンなど合成樹脂製品を生産

従 業 員 数： 207 名

安 全 成 績： 無災害記録時間 965.4 万時間 無災害年数 27 年 10 ヶ月

主要受賞歴： 日化協安全優秀賞受賞〔2015 年〕

選 定 理 由： 当該事業所は、「すべての災害は防ぐことが出来る」という信念のもと、安全、健康で快適な職場づくりを目指して、安全衛生活動を継続的に推進している。過去に実施した TPM 活動の利点を生かした「たつの三革新（TTI）活動」を推進しており、現場は整理され、整然としている。また、事業所 2025 年目標達成シート（マンダラチャート）を作成し、KPI により、達成状況を確認するなど、きめ細かい安全活動を実施している。事業所長の安全意識は高く、中間管理職、現場担当者は安全に積極的に関与している。製造設備（バッチプロセス）に、非常 HAZOP を実施するなどして危険性を把握し、事故防止を図っている。現場担当者は、様々な工夫を提案し安全に取り組んでいる。全社 5 年間分の労働災害集計・分析、手書き黒板利用、等身大モデル等の工夫を凝らした安全啓発、安全表示はユニークであり、現場の安全に繋がっている。不安全作業含む「コンデンサー掃除」の改善など、現場での改善活動のレベルは高い。

以上から、株式会社レゾナック龍野事業所は、安全最優秀賞に相応しい。

【安全優秀賞】

PS ジャパン株式会社 水島工場

設 立 年： 1964 年

主 要 事 業： ポリスチレン樹脂の製造・販売

従 業 員 数： 66 名

安 全 成 績： 無災害記録時間 233.0 万時間 無災害年数 25 年 3 ヶ月

主要受賞歴： 日化協無災害事業所確認証〔2020,21,22,23 年〕

【安全優秀賞】

三井・ダウ ポリケミカル株式会社 千葉工場

設 立 年： 1967 年

主 要 事 業： エチレン・酢酸ビニル共重合樹脂「エバフレックス®」、低密度ポリエチレン「ミラソン」及び多目的シール樹脂「CMPS®」の製造

従 業 員 数： 127 名

安 全 成 績： 無災害記録時間 787.0 万時間 無災害年数 29 年 7 ヶ月

主要受賞歴： 厚生労働省「見える」安全活動コンクール〔2023 年〕

【安全優秀賞】

株式会社レゾナック・オートモーティブプロダクツ 関西事業所（石川）

設 立 年： 1938 年

主 要 事 業： 主に自動車用機能部品を主力とした工業用プラスチック部品の製造

従 業 員 数： 62 名

安 全 成 績： 無災害記録時間 210.6 万時間 無災害年数 14 年 1 ヶ月

主要受賞歴： TPM 優秀賞受賞〔2013 年〕、
健康づくり優良企業知事表彰を受賞〔2015 年〕

【安全優秀賞】

株式会社レゾナック・セラミックス 横浜工場

設 立 年： 1933 年

主 要 事 業： 電材フィラー用途及び放熱フラー用途などに用いられる、アルミナ製品の製造と開発

従 業 員 数： 61 名

安 全 成 績： 無災害記録時間 605.9 万時間 無災害年数 24 年 5 ヶ月

主要受賞歴： 令和 6 年度神奈川労働局長安全衛生表彰 奨励賞〔2024 年〕
日化協安全優秀賞〔2012 年〕

【安全優秀特別賞（研究所）】

株式会社レゾナック つくばサイト

設 立 年： 1986 年

主 要 事 業： 主に電子材料や車載用材料に関する機能材料の研究開発

従 業 員 数： 122 名

安 全 成 績： 無災害記録時間 930.4 万時間 無災害年数 37 年 6 ヶ月

主要受賞歴： 一般社団法人土浦労働基準協会 安全管理優良事業場表彰〔2022 年〕

<ご参考>

【日化協安全表彰について】

化学業界における自主的な保安・安全衛生の推進の一環として、安全の模範となる事業所を表彰する制度で、安全表彰会議で審査されます。

2025 年は第 49 回を迎え、2024 年 12 月までの実績に基づく募集を行い、優れた安全成績を収める 8 事業所（内、1 研究所を含む）から推薦（応募）がありました。審査は、鈴木和彦議長（岡山大学名誉教授）のもと、安全表彰会議において行われ、様々な角度から慎重かつ公平に表彰対象候補を絞り込み、特に優れた 6 事業所を 1 次選考事業所として選びました。2 次選考は昨年同様に現地審査を実施し、各候補事業所の安全活動に対する取り組みを確認しました。その内容を踏まえ安全表彰会議にて慎重に審議し、その結果、安全最優秀賞 1 事業所、安全優秀賞 4 事業所および安全優秀特別賞（研究所）1 事業所を選考しました。

第 57 回 日化協 技術賞

【総合賞】

独創性に富んだ優れた技術で、かつ科学技術の進歩に寄与したもので、技術として確立しており産業上の価値の高いもの

(該当なし)

【技術特別賞】

独創的技術あるいは改良技術で、科学技術の進歩に寄与したもので、比較的規模は小さくとも、独創的で技術的に優れたもの

帝人株式会社、福井経編興業株式会社、大阪医科薬科大学

受賞業績：「小児心臓再手術のリスクを減らす心・血管修復パッチの開発と実用化」

業績内容：

先天性心疾患は、生まれつき心臓や血管の一部が正常と異なる構造（欠損や狭窄）である疾患で、およそ 100 人に 1 人の新生児が当該疾患をもって生まれてくる。患者の多くが新生児や幼児のうちに受ける開心術においては、欠損や狭窄病変を修復するためにパッチ状の材料が心臓や血管に縫着される。医療技術の進歩により手術を受けた多くの子供たちが大人へと成長できるようになったが、一方で、埋植したパッチの異物反応による劣化や、身体成長に対しパッチが追従できないことによる手術部狭窄など様々な続発症が起きている。この結果、再手術によってパッチの交換を余儀なくされることがあり、患者やその家族にとって身体的かつ経済的な負担となり医療者も悩ませてきた。この課題を解決するため、帝人株式会社、福井経編興業株式会社および大阪医科薬科大学が、患者自身の組織に置換されることで異物反応を防ぎ、かつ成長に合わせて伸張可能な世界初の心・血管修復パッチを共同開発した。

本品は、体内吸収性の糸と非吸収性の糸から成る特殊な経編構造の編地を、体内吸収性の架橋ゼラチン膜で覆い一体化させたシートである。手術直後には患者の血管壁の代替となり、徐々に患者自身の組織による置換が進み、かつ、患者の組織成長に追従した伸張が可能になるという、一見相反した特性を両立したことが本品の最大の特徴である。本業績は、産学の強い連携による開発に加えて、行政や関連学会などの強力な支援も受けて達成したものであり、日本の産業発展のあるべき方向の一つを示すオープンイノベーションの好例である。

本品は、2024 年 6 月に国内上市され全国の医療機関で 100 名以上の患者に使用されている。欧米での薬事承認と販売の実現に加え、本技術を応用する後続医療機器開発という産学コンソーシアムの成功例を示すことで、わが国の積年の課題としてきた医療機器輸入超過の解消や、技術立国を標榜するも後塵を拝する現状からの自信回復などへの波及が期待できる。

【環境技術賞】

独創的技術あるいは改良技術で、環境負荷低減に対して著しい効果があり、科学技術の進歩に寄与したもの

花王株式会社

受賞業績：「持続可能な社会基盤構築に貢献するコンクリート表面美観向上技術の開発」

業績内容：

コンクリート製品では、型枠に流し込む際に気泡が入り込み、完成時に小さな陥没（気泡痕）が表面に現れるが、その補修作業にかかる労力は全工程の約半分を占めるほど負荷が高いことが分かっている。また、コンクリートの主要材料であるセメントは製造時に大量の CO₂ を排出するため、セメントを代替した「環境負荷低減（環境配慮）型コンクリート」への転換が強く求められている。しかし、その場合、未硬化コンクリートが高粘度化し、脱泡性が低下、さらに気泡痕が顕著に現れてしまい、普及妨げの一因となっている。

本技術は、コンクリートの型枠油への濡れ性を向上させ、気泡の付着力を低減させる、独自の特殊界面活性剤に関するものである。これにより、コンクリートの界面を高度に制御し、通常のコンクリートだけでなく、気泡痕が生じやすいセメントを 40%削減した環境配慮型コンクリートでも、完成時の表面補修作業が不要なレベルの圧倒的な気泡痕低減に成功した。さらに、使用時の扱い易さを追求し、高い温度汎用性を有する設計とすると共に、一般的に使用されている親水的なセメント分散剤と疎水的な特殊界面活性剤のミセル制御による一剤化に成功した。これらにより、既存設備および従来の運用条件で「誰でも簡単に」環境配慮型コンクリートを製造可能となり、その普及加速が期待される。

花王株式会社は、得意とする界面科学を活かし、60 年以上にわたってコンクリート製品に関する事業で貢献してきており、現在これらの資産を活かしながら市場展開を進めている。本技術による「環境配慮型コンクリート」の普及加速は、コンクリート業界が抱える環境負荷の低減に繋がり、持続可能な社会基盤構築に大きく貢献するものである。

東ソー株式会社

受賞業績：「機能性 3 級アミン「RZETA®」の開発」

業績内容：

本技術は機能性 3 級アミン「RZETA®」に関するものである。RZETA®はトリエチレンジアミン（TEDA）骨格に水酸基を導入した分子構造をもち、ポリウレタン用触媒用途や CO₂ 回収剤用途で特長的な機能を有する。

3 級アミンはポリウレタン製造において、骨格形成や発泡反応を促進する触媒に用いられる。従来の 3 級アミンは製造したポリウレタンから徐々に揮散し（アミンエミッション）、臭気、眼の刺激、他部材の汚染等を引き起こす問題があった。

これらの問題に対し、**RZETA®**は水酸基がポリウレタン原料のイソシアネートと反応することでポリウレタン内に固定化されるため、アミンエミッションが発生しない。このため、**RZETA®**を用いて製造したポリウレタンは低臭気となり、製造現場、自動車室内、家屋室内等を安全で快適な環境にすることができる。また、アミンエミッションによる他部材汚染を回避できることから、自動車内装材で使用される塩ビ樹脂、ポリカーボネート等の部品を長寿命化が可能である。

また、**CO2** 回収分野において、従来、化学吸収法で使用するアミンは **NO_x** によって分解されるため、**NO_x** が不純物として含まれるゴミ焼却場やセメント工場等の燃焼排ガスには長期間連続で 사용할ことができず、分解されたアミンの補填や交換が定期的に必要となることが課題であった。これに対し、**RZETA®**は剛直な3級アミン骨格を有し、**NO_x** による分解が起こらないため、**NO_x** に対して高い耐久性を示す。このため、ゴミ焼却場やセメント工場等の燃焼排ガスに対して、長期間の連続運転が可能となり、**CO2** 回収剤の交換、廃棄にかかるエネルギーや環境負荷を低減できることが期待される。

RZETA®は、2014 年度に独自プロセスによる製造プラントを導入し、製造を開始した。既にポリウレタン用触媒として数多くの顧客に販売しており、**CO2** 回収剤としても高い耐久性が評価され、プラントへの実装を検討している。

第 19 回 日化協レスポンスブル・ケア (RC) 賞

【RC 大賞】

花王株式会社

和歌山工場・研究所

テーマ：歴史と環境を未来につなぐ生物多様性モデル工場への取り組み

活 動：

花王の和歌山工場は創業以来、場内に現存する江戸時代に築かれた防潮林を中心とした緑地を保全し、事業活動と緑が調和した環境を創ってきた。2011 年からは、花王が公表した生物多様性の基本方針に基づき、生物多様性モデル工場を目指して戦略的かつ積極的に活動を進めてきた。

①地域の生態系調査と保全方法の確立と実行

②社員の環境意識の向上

③社外の関係者・機関との連携

その結果、地域社会との交流が大いに促進され、また社員のウェルネス向上、エンゲージメント醸成等、地域固有の生態系から多くのサービスを享受できている。

【RC 審査員特別賞】

住友化学株式会社

MMA 事業部

エッセンシャル&グリーンマテリアルズ研究所 研究グループ (高分子)

工業化技術研究所 研究グループ (愛媛プロセス)

テーマ：アクリル飛沫防止板地域内資源循環プロジェクト MICAN プロジェクト
～(M)みんなで(I)いっしょに(C)サーキュラー(A)アクション(N)にいはま～

活 動：

住友化学は自社の GHG 排出を削減する「責務」と製品・技術の普及による社会の GHG 削減への「貢献」を進めている。新型コロナウイルス感染症の分類変更に伴い、大量廃棄が予想されたアクリル製の飛沫防止板リサイクルプロジェクトを 2023 年に新居浜市と共同で実施した。期間中 2,409kg の飛沫防止板を回収し、同社の独自技術によるケミカルリサイクルを行いアクリル樹脂の原料に戻した。その一部をキーホルダーなどに再生して新居浜市内の小学生に配布し、資源循環に向けた教育活動にも貢献している。

三菱ケミカル株式会社

茨城事業所 工事安全衛生協力会

テーマ：三菱ケミカル(株)茨城事業所 教育体感施設「鹿島安信塾」活用における協力企業第一線作業者のレベルアップ

活 動：

三菱ケミカルが工事協力企業と一体運営している体感教育施設「鹿島安信塾」は、2005 年当時労働災害が多発し、実体験を伝承するニーズが高まり、工事協力企業の発起、同社との協業により設置した。しかし、数年後には利用者数の減少とともに災害件数が増加し、都度対応してきたが抜本的な改善には至らなかった。そこで、2022 年からこれらの課題を克服するため、協力企業も交え再び検討を開始、課題を抽出し対策を行った。その施策は効果てきめん、2024 年定修では第一線作業者のレベルアップにより災害件数は大幅に減少、工事品質も向上し成果をあげることができた。

【RC 優秀賞】

デンカ株式会社

千葉工場環境保安部

テーマ：独自の体感施設を活用したテクニカルスキル・ノンテクニカルスキル教育による安全文化醸成に向けた取り組み

活 動：

デンカ（株）千葉工場では、安全文化の醸成、保安事故・労働災害の減少・軽度化を目指す教育として、体感教育施設「安全力創成館」を立ち上げ、2020 年 5 月より運用を開始した。体感教育に加えノンテクニカルスキルも考慮したユニークな内容とし、工場で働く全ての方（社員、協力会社、関係会社の方も含む）を対象に教育を行い、現場力底上げを図っている。2024 年 10 月末時点で延べ約 5,000 名の方への教育を実績化しており、アンケートにて受講者の安全意識の向上を確認している。今後も持続可能な活動として取り組む。

三井化学株式会社

大阪工場

テーマ：労働災害危険源抽出 AI “Marsa” の開発と安全活動の活性化

活 動：

三井化学(株)大阪工場では、適切な場面で、過去事例や記録類の有効活用を可能にし、安全活動のレベルアップ、及びトラブルの未然防止／早期解決を支援するために、自然言語系 AI による危険源抽出システムを開発、導入した。本システムの導入により、経験の浅い若手のリスク認識力向上や、職場の安全活動の活性化の効果が得られたため、他国内工場でも利用が始まっている。本取組みは、新聞や社外講演などで広く公開されていて、現在も年間 10 件以上社外から問い合わせを受けるなど、関心度が高いシステムになっている。

【RC 努力賞】

日本ペイントコーポレートソリューションズ株式会社

日本ペイントグループ レスポンシブル・ケア委員会 主管 RC 事務局

テーマ：「RC 中長期方針」の策定 ～永続的な RC 活動、進化を目指して～
活 動：

1995 年のレスポンシブル・ケア協議会設立時には RC 活動を始めており、当初より国内グループ一体で活動を展開、RC 組織に合致したマルチサイトで ISO14001 を取得するなど 2014 年の関係会社統合、事業会社分社化を経ても一貫してグループ一体での RC 活動を愚直に続けてきた。そこに気候変動等の社会課題を取込み、RC 活動の新基盤とすべく「RC 中長期方針」を策定し運用を開始した。長年継続した安全・安定操業を土台に、中長期視点での環境保全目標を盛込んだ活動も実践することで、RC を軸として今後も業界をリードしていく。

<ご参考>

【日化協レスポンシブル・ケア（RC）賞選考基準】

- ・ RC の 6 コード（保安防災、労働安全衛生、環境保全、コミュニケーション、化学品・製品安全、物流安全）に関する活動で顕著な成績を残したもの
- ・ 企業内の RC 活動の推進にあたり、率先して実施し、顕著な貢献のあったもの
- ・ RC の海外活動に貢献したもの

【レスポンシブル・ケアとは】

地球環境問題や工業化地域の拡大などによる「環境・健康・安全」に関する問題の広がり、また、技術の進歩により発生する新たな問題等に対して、化学物質に関する環境・健康・安全を規制だけで確保していくことは難しくなっています。換言すると、環境・健康・安全を確保していくために「化学製品を扱う事業者が責任ある自主的な行動をとること」が今まで以上に求められる時代となっている、と言えます。

こうした背景を踏まえて、化学業界では、化学物質を扱うそれぞれの企業が化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至る全ての過程において、自主的に「環境・健康・安全」を確保し、その成果を公表し、社会との対話・コミュニケーションを行う、という活動に取り組んでいます。この活動を“レスポンシブル・ケア”と呼んでいます。

レスポンシブル・ケアは 1985 年にカナダで誕生しました。1989 年に国際化学工業協会協議会（ICCA）が設立され、レスポンシブル・ケアを通じた安全・環境の向上への取り組みと社会との対話とを所属各国協会が協力して行うとともに、レスポンシブル・ケアを途上国等に普及させる活動を行っています。